

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【Ⅲ】
2 実施対象者	二島小学校学校 4学年 2クラス 42名 障害者支援施設 ちづる園 6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由や視覚障害のある方の生活する苦勞や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。 ・ 障害者スポーツを通して、障害者と健常者が交流することで、障害者に対する理解促進につなげる。
5 取組内容	<p>障害者支援施設 ちづる園の方をお招きし、ちづる園スタッフ支援のもと、車椅子の利用体験を行った。また、アイマスク歩行や水飲みの体験などの実践も行った。</p> <p>パラリンピック競技としては、「ボッチャ」の体験を、実際のルールに基づいたゲーム形式で行った。</p> <p>最後に、実際に現場で働く方々としてのやりがいや苦勞などを語ってもらった。</p> <p>当日の風景写真については、最下部以降に記載。</p>
6 主な成果	<p>4年生の総合的な学習の時間においては、点字などの、体験活動等を行っていたが、車椅子等の体験は、現物及び多数の支援者を要するため、本事業により、大変有意義な活動ができた。</p> <p>また、障害者スポーツの難しさや奥深さについて、実感を伴った理解をすることができた。実際、体験した子どもたちも、ボッチャのスポーツとしての楽しみに気付いた感想が多く見受けられた。</p> <p>その他の障害者への感想としては、「すごい」「大変な思いをしている」「(アイマスク体験などで) こわい」といったものが多く、自分たちの日常生活で、障害者の方々がどのように感じているかを考えるきっかけになった。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>本校は、ユニバーサルデザインを研究主題に挙げているため、すべての教科において、日々、誰にでもわかりやすい授業を実践している。</p> <p>今回の一連の授業においては、子どもたち自身が、他者の視点からわかるようにしたり、できるようにしたりするという感性を持つことができるように工夫し、思いやりの心を持ち、表現力を高めることができるように誘導する工夫を行った。</p>

8 主な課題等	<p>子どもたちの感想の中に、当初目標に掲げた「誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情」についてまで踏み込めたものが多くなかったため、今後は、ここまで結びつくしなげづくりについて検討を重ね、実践していきたい。</p> <p>また、障害者スポーツの体験を一過性のもので完結してしまわないため、冬季パラリンピックの開催後は、子どもたち自身の体験と障害者アスリートの苦勞が結びつくようなアフターフォローを行ってきたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今回は、車椅子を使ったアスリートとの日程が合わず、講師として学校にお招きすることができなかったが、来年度以降は、早期に調整し、招聘する方向で検討していきたい。</p>

【体験活動当日写真】

